

(様式1)

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(1年次)【中学校】

【学校名等】

学校名	城陽市立西城陽中学校							校長名	松尾 貴仁
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援				生徒数	296名
学級数	3	3	3	2					
事業担当教員名	研究主任 廣田 貴秋								
① 中学校区で目指す子ども像	・互いに認め合い、自ら考え行動する、自ら考え学び合う子 ・人と人とのつながりを大事にし、お互いを思いやりながら高め合える関係性を築き、社会の中で生きる力をもった子 これまで西城陽中学校ブロックで研究を進めてきた「学び合い」を軸に、ICT 機器をより効果的に活用して、「自分で考える力」「自分で学ぶ力」を更に育んでいきたい。								
② 目指す子ども像	「互いに認め合い、自ら行動する、創造性あふれる心豊かな生徒」 【目指す学校の姿】 「生徒が生き生き学び、教師も成長する学校 ～一人一人が輝く西城陽～」 「学びの共同体」と「ICT 機器の効果的な活用」の実践からすべての生徒の学力の向上と学力保障を実現し、認め合う集団づくりを通して、更に「自分で考える力」と「社会の中で生きる力」を育んでいきたい。								
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	現状 ・授業、行事、部活動などに前向きに取り組み、意欲的に学校生活を送る生徒が多い。 ・授業では、仲間の考えや意見を尊重し、それを丁寧に聴き合う雰囲気がある。 ・学びの共同体による協働的な学びを実践することで、認知能力と非認知能力へのアプローチが進み、基礎学力の向上を図っている。 ・ICT 機器を有効に活用することで、タブレットの文房具化が進み、個別最適な学びに寄与している。 ・教員同士の同僚性が高く、学びの共同体の研究を全校で取り組んでいる。 課題 ・より協働的な学びが進むように、ジャンプ課題の創造と共有を図る必要がある。 ・学び合いの推進の一方で、課題に対して自身で思考し答えを見出す力が備わっていない。 ・小学校高学年時にコロナの影響を受け、他者との関係作りが苦手な生徒もいる。 ・家庭学習が不十分であり、基礎基本の定着が疎かな生徒もいる。 ・家庭環境の困難さゆえに、学力の積み上げが難しく、学力差を引き起こしている。 ・自分自身で課題を見つけ、探究し問題解決する力が弱い。 ・昨年度の学びのパスポートの結果を受けて、学びへの自主性が全体的に低い。 また、学力が低い学年で学び合いが行われていない結果となった。								
④ 目指す子ども像に達するための仮説	・心理的安全性の高い学級、学年においてペアやグループ学習が活発化するのか。 ・グループ学習に積極的に取り組む生徒の学力、非認知能力は共に向上するのか。 ・学力が高く非認知能力の低い生徒に改善が現れるのか。 ・学力が低く非認知能力の高い生徒に改善が現れるのか。 ・関係性づくりが育まれた学校においては、生徒指導事象や不登校は減少するのか。								

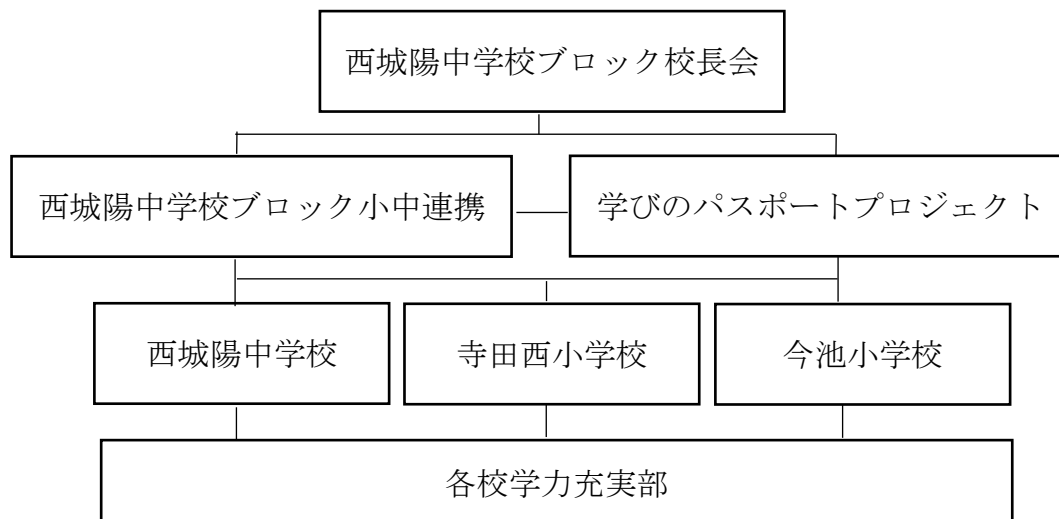
令和6年5月1日現在

【 1 研究主題】

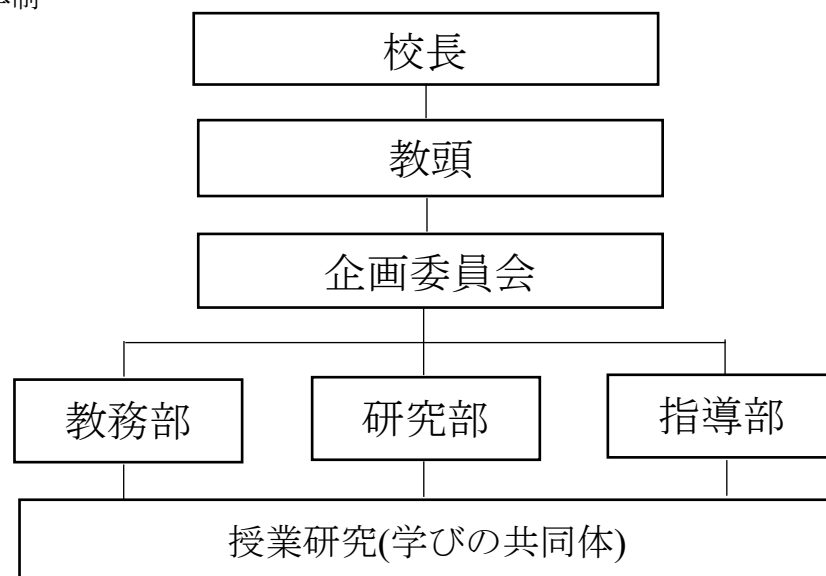
- ・学校教育活動において自分で考える力の育成を目指した工夫と改善を図る。
- ・効果的に ICT 機器の活用を実践し、「学び合い」学習の充実を促進する。

【 2 研究組織体制】

(1) 中学校ブロックの組織体制



(2) 校内の組織体制



【 3 研究計画・具体的な取組内容】

実 施 月	研究内容、研究方法、成果の公開 等
4 月	研究部方針計画 全国学力・学習状況調査(3 年生)
5 月	校内研修会(成績研修) 学びのパスポート実施、学びのパスポートプロジェクト会議
6 月	生活実態アンケート
7 月	校内授業研究会① 授業参観デイズ 道徳ウィーク
8 月	8 月上旬＊学びのパスポート結果返却、第 1 回分析・活用研修会 校内研修会「探究的な学びについて」 西城陽中学校ブロック夏季合同研修会 学びのパスポートプロジェクト会議

9月	校内授業研究会②
10月	10月上旬＊第2回分析・活用研修会
11月	授業参観デイズ・学びの共同体先進校視察 道徳ウィーク
12月	学び合いアンケート、学びのパスポートプロジェクト会議
1月	校内授業研究会③ ＊研究校交流会（予定）
2月	研究部総括、校内研修会（研究部まとめ）
3月	次年度研修計画作成

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
全校	31	わからない問題にであった時、調べたり、さらに深く考えたりしている。	自己調整	
全校	41	人が困っているときは、進んで助けている。	他者と進んで関わろうとする態度	
全校	45	自分の考えたことよりも、相手の方がよい考えを持っていると感じたときは、相手の考えを取り入れるほうだ。	思考の柔軟性	
全校	59	普段の生活の中で、自分の考えを自由に話すことができる。	心理的安全性	中学校ブロック共通項目

＊5・6の分析の項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法 A 目標に向けて取り組む姿勢と自分らしさの発揮、チャレンジ精神は2を切っているの、質問の項目で一つ以上、1をつけていることが読み取れる。そのため手立てとして、一人で考える時間を多く取るのではなく、周りと話し合いをすることを多くさせることで、徐々に自分の意見・発言に自信を持ててできるような環境を作る必要がある。 B 継続して多くの関わりの中で心理的安全性、他者と進んで関わろうとする力を育む。（学び合いが必要）・通級の回数を増やす。 C 教科横断的な授業改善を通して、丁寧な指導で内容や意味を教える。本人、保護者に困り感がないため、深い考えに至る促しや声かけを心がける。 D 自分らしさを発揮できてない。客観的に自分を見ることができていない。目標に向けて取り組むことはできるが、計画的に物事をすすめることができない。がんばりたいけど、がんばる方向が違う。やる気と人とつながろうとする力の偏りがすごい。自分だけで完結しようとしている。⇒自信をつける。他の人の意見をきく。 E 学力の向上と進路実現に向けて、将来像を示しながら、高校進学の見通しをもたせる。逆算できる計画性、見通しを持たせ、学習意欲の向上につなげる。 F 家庭学習が定着していない生徒なので、学校での学習（学び合い）を前向きに促し、グループに入れる。自分らしさを認められたり、発揮できたりする場面を設ける。しおりの挿絵など、絵が得意なのでそれを発揮できる場面を設ける。 G 学び合いの際に教師が言葉をかけ、周りの生徒のフォローに繋ぐ。部活動で頑張れる自己のイ
--

メージを他の場面でも発揮できるように促す。

H

心理的安定性、将来に向けての見通しを支援する。助けてくれる友人をつくっていく。

I

学び合いを生かした知識の定着、実践的な英語力の伸長を図る。英語の授業の改善を通して、日常や社会に生きる課題設定、課題についての発表の場を作り、褒める。やらざるを得ない環境を提示する。美容師など、将来の夢とリンクさせる。行事を通した信頼関係の構築につなげ、前向きに学習を頑張れる生徒と学ばせる。

集団としての具体的な指導・支援方法

心理的安全性を育むための実践例

- ・学び合いの継続、作法の確認と生徒への周知 ←校内研修会で教員の共通理解を図る。
- ・生徒総会(生徒主体の取り組み)
- ・生徒会企画の導入(体育大会部活動リレー)
- ・休み時間のボールの貸し出し
- ・各学年キャンペーン(3年:お小遣いキャンペーン2年:規律キャンペーン1年:思いやりの木)
- ・全校体制の夏季補習
- ・学年、学級通信の発行
- ・丁寧な生徒指導
- ・保護者との密な連携
- ・花いっぱい運動 地域ボランティア及びPTAとの協力

今後の方策

- ・コの字型スタイルの授業:生徒と教師の価値の共有
- ・探究課題の創造(第2回、3回校内授業研究会)
- ・積極的授業公開「Come on キャンペーン」
:互いに授業を見合う習慣、生徒理解及び探究的な学びの追究
- ・行事のリーダー育成 頑張りのフィードバック

【8 仮説の修正】

特になし。

【9 具体的な取組内容の修正】

特になし。

【10 生徒の変容(普段の様子から)】

・探究的な課題、ジャンプ課題の創造

- 学び合いがより活発に進められ、聴き合う様子が多く見られた。生徒同士の授業内でのやり取りが増えていて、やり取りの中身も自分の感覚やイメージを相手に伝えている姿が見られた。
- 日常生活に関連させた課題に対して興味をもって取り組む様子が見られ、想像力や表現力が高まった。
- 他者の意見を丁寧に聴くことで、学習のヒントを得て、理解を深めていた。諦めずに考える姿があった。
- 少数ではあるが、共有の課題よりもジャンプ課題で力を発揮する生徒も見られた。実際に学力が高い生徒ではなく、学力が低い生徒が発言する場面があった。
- 課題の後に取り組んだレポートや振り返りの内容がより具体的に書けていた。知識、技能の定着につながる内容のレポートや振り返りの記述が見られた。
- 「この考えはいいね」「いい線まで行ってる」「合格点!だけど、さらに深められると120点の解答かな」と全体にも共有していくと、より活発に考えようとする生徒が増える。

- 課題によっては手詰まりになり、沈黙、硬直している生徒もいる。ただジャンプ課題のように完璧には分からないレベルの課題を設定すると何かしら答えようとする姿が見られる。
- 答えをすぐに知りたい、また粘り強く取り組めない生徒も一部いる。
- 個別支援の視点では、基礎的な問題から少しずつ段階を踏みながら考え、言語化する過程で課題が見られた。

・コの字型一斉指導

- 相談が気軽にできる雰囲気がある。集中度が高まっている。
- 授業外でも、アンケートなどの細かい指示で分からないところを教え合う姿を多く見られた。
- 低学力の生徒が課題に前向きに取り組んでいた。
- 前向き一斉指導よりもコミュニケーションの練習になっている。
- 1年生は暖かい雰囲気があり、人権意識も高い。
- 教師と生徒の距離も近くなり、質問がしやすい様子がある。
- 生徒が互いの顔が見られるので反応が分かりやすい。
- 声の小さい生徒も自己解決できるような姿が増えたように思う。
- 最初はざわざわしたりキョロキョロしたりしていたが、徐々に慣れていった。
- 聞く時は聞く、話す時は話すといった切り替えもできるようになっている。
- 学び合い班での効果にも良い影響があり、自分たちで主体的に学び合う様子が見られた。
- 教室や授業の雰囲気の中で、一体感が生まれている。
- 学年によってはアイコンタクトや余計な私語も増えた。

・心理的安全性の視点

- 指導をする場面で、誤魔化したり、嘘を言ったり生徒は少なかった。優しい雰囲気があり、他の人の考えなどを受け入れている姿が見られた。
- 授業では、自分からグループの人に分からない時は聞いたり、教えたりして取り組んでいるので分からなさを安心して出せる。
- 道徳のパーソナルな質問の時はロイロノートで無記名共有している。その際も学び合いグループで議論している様子があり微笑ましい。
- すべての生徒が発言できている。男女分けて隔てなく学び合いで協力できている。
- 分からないとつぶやける生徒が多い。難しい問題の解き方を言いたそうにしていた生徒を指名したら、周りから拍手が起こった。
- 1年生の中で、特にリーダーが全体に声かけができている。声かけができるということは、「バカにされない土壌」ができている証
- 授業中、学び合い班にしても、雑談が長引かない。集団として、学びに向かう姿勢、一生懸命に頑張る姿勢が形成されている。
- リーダー層や中間層の生徒たち等が、生徒同士や教師との関係性が全体的に良くなったと思う。「先生が悲しむのは悲しい」という言葉が聞こえてきたりしたので、普段の主任や担任の先生方の行いや声掛けが響いていると思われる。
- 学級委員が厳しい意見をクラスに向けて発信しても否定せずに聴き合える雰囲気がある。
- 学び合いのグループなら話せるという生徒もいた。
- 学年として不登校生徒の数が非常に少ない。すべての生徒が授業内で自由に発言する様子を見ることができる。
- 落とし物に関して、すぐ持ち主が見付かる。給食のおかわりに全員いける。
- 「全員が」という意味では当てはまらない気がする。伝えたからと否定する雰囲気はないが、「自由に」は全体の間ではまだまだ苦手な生徒もいる。
- 授業での様子を見ていたら小集団では意見が言えても、集団が大きくなればなるほど周りがどう動くかを見てから動く人が増えているように感じる。

【11 2年次の研究構想】

・継続的な探究的な課題の創造

生徒が主体的に学びを深めるために、探究的な学習課題を年間を通じて継続的に設定する。単元のまとめや新たに習う範囲で探究させることを、学年ごとに段階的に発展させる。各教科部会を設定し、「日常生活や社会と関連付けた課題」を考え、授業で実践する。生徒自身が課題を見出し解決策を考える過程を通して、自主学習や学び合いを促進させ、思考の柔軟性や自分らしさの発揮など非認知能力の向上を図りたい。

・授業でのギミックの実践

生徒の興味・関心を引き出し、深い学びにつなげるために、授業内での「ギミック」（仕掛け、工夫）を実践する。教師が意図的に仮説やインフォメーションギャップを提示し、生徒が自ら考え検証する場面を増やす。関連性、現実性、近接性、ゲーム性を取り入れた課題に対して、具体物を取り入れるなど教具ギミックも吟味し、生徒の主体的な授業参加を促す。コの字型や学び合

いなど空間ギミック、活動ギミックの研究を進め、生徒の知識、技能の定着を図る。

・ 特別活動、総合的な学習の時間、道徳教育との連携

教科の枠を超えて、生徒の資質・能力を総合的に育成するため、特別活動（学級活動、生徒会活動、委員会活動）や総合的な学習の時間、道徳の時間との連携を強化する。具体的には、生徒会や委員会活動を通して、学び合いの作法の確認やコミュニケーション力を高める企画、運営を実践していく。総合的な学習の時間での探究的なテーマと非認知能力の育成を結びつけ実践していく。キャリア教育とも関連付け、学び続ける意欲や姿勢を発達段階に応じて育成していく。

・ 非認知能力の評価結果の共有

学力だけでなく、自己調整、思考の柔軟性、他者と進んで関わろうとする態度などの非認知能力の育成と評価にも力を入れる。ルーブリック評価や振り返りシートを活用し、生徒自身が学びを振り返り、成長を実感できる仕組みを作る。生徒同士の相互評価や教師からのフィードバックを行い、それらの考えや価値観を教員間で可視化し、共通理解を図る。

・ 先進校視察や講師の招聘

最新の教育実践を取り入れ、学校全体の指導力向上を図るため、先進的な取り組みを行っている学校の視察や外部講師の招聘を積極的に行う。探究的な課題の創造やギミックを取り入れた授業、ICT活用の分野で先進的な学校を視察し、自校での実践に活かす。各教科の研修会への参加を促し、授業改善のヒントを得る。視察や講師招聘の成果を校内研修で共有し、全教員で指導力向上に取り組む。